

# 平成28年度 第1回八幡浜市総合教育会議議事録

## 1 日時

平成28年5月12日(木) 9:00～9:40

## 2 場所

八幡浜市役所八幡浜庁舎3階庁議室

## 3 出席者

### (1) 構成員

大城一郎市長、井上靖教育長、菊池誠教育委員、藤原大志教育委員、  
小野巖教育委員、上田純子教育委員

### (2) 構成員以外の出席者

副市長、総務企画部長、総務課長、総務課長補佐、  
教育指導主幹、学校教育課長、生涯学習課長、学校教育課長補佐

## 4 議事

### (1) 市長あいさつ

- 熊本地震では、学校施設が損害を被ったり、避難所として利用されたりしたが、八幡浜市でも南海地震への対応を考えておく必要がある。
- 八幡浜市教育大綱の基本方針の一つである「安全で安心できる学び場の確保」、具体的には、小・中学校の耐震化や学校規模の適正化等について意見交換したい。

### (2) 学校の耐震化及び学校規模の適正化について

#### 【事務局】

- 学校の耐震化について、資料「八幡浜市立幼稚園、小・中学校施設耐震診断結果戸別状況」により説明。
- 学校規模の適正化について、資料「八幡浜市の学校統廃合の状況」により説明。

#### 【市長】

- 学校再編計画については、再編整備検討委員会で審議するが、総合教育会議としても意見を持ちたい。

#### 【菊池委員】

- 親の立場としたら、統合して、子ども(小学生)を遠方の学校へバスで通わせるのは、心配である。

### 【小野委員】

- 小学校の間は地域との接点はかなりあり、親は地域に小学校があれば安心できるし、学校の存在は、地域が栄える一つの条件と言える。
- 八幡浜には日本を代表するミカンの産地が点在しており、その地域に後継者を増やさなければいけない状況の中で、学校をなくしていくというのは、市のビジョンとしては、寂しい気がする。
- 海岸部の小学校が、統合の対象となっているが、その地域に一つ学校があっても良いと考えている。

### 【市長】

- 三瓶町は、平成26年に三瓶小学校一つに統合されたが、小学校をある程度の規模で残す話はどうもいかなかったとも聞いている。一つにする方が保護者や地域がまとまることもある。

### 【藤原委員】

- 三瓶町の小学校が統合したことによって、地域のコミュニティーに変化があったというような話は聞いていないのか。学校がなくなってすぐ地域がさびれたということになれば一番寂しいことである。

### 【市長】

- 三瓶小学校の統合で、地域社会に変化があったというような話は、今のところ、入っていない。

### 【事務局】

- 本市の参考事例であるが、小学校が統合された地区の公民館長が、小学校がなくなっても地域の子どもたちは地域で育てたいという気持ちは一緒であると話していた。

### 【上田委員】

- 学校を残したい気持ちは同じだが、将来のことを考えた場合、双岩小学校区で昨年度生まれた方が2人、その前年度が4人ということで、以前の日土東小学校と同じような数字になっている。日土東小学校の統合の際、複式学級の解消ということの一つの目標にして取り組んだ経緯があり、整合性が気になる。
- 大きな学校にそのまま統合するのも一つの案だが、例えば海岸部で一つの学校を作るとか残すといった地域性を生かした統合も、今回、盛り込んでも良いと感じる。
- 城川中学校長から聞いた話だが、城川町の小学校が一枚に統合されたとき、地域からかなり意見が出され、大変な問題もあったが、地域がまとまる良いきっかけになったとのことである。

**【井上教育長】**

- 川上地区と真穴地区を例にとってみると、文化面でも伝統的な財産が残っており、そういう部分も併せて考えていかなければいけない。第2次学校再編整備計画に当たっては、市全体の構想、市全体としてどう見ていくかというまとめが必要である。

**【市長】**

- 今回の熊本地震を考えると、校舎の耐震化の方向性も併せて統廃合の議論を進める必要もある。

**【菊池委員】**

- 学校の統廃合に当たっては、市全体の子どもの数を見た上で、校区の見直しも含めた市全体のビジョンが必要だと思う。

**【市長】**

- 学校規模は、時代に応じて変化している。子どもたちの一番良い環境を考え、その時代に合った校区割も考えたら良い。

**【小野委員】**

- 統廃合に当たっては、環境整備等の予算措置を考慮して、教職員や保護者等みんなに理解してもらうような形にしてほしい。

**【市長】**

- 予算については、学校整備検討委員会で示される内容にあわせ、まとめていきたい。

**【小野委員】**

- 学校の統廃合を進める中で、地球温暖化の環境下では、将来的には、冷暖房設備の整備を進めていくことも考慮したら良いと思う。

**【市長】**

- 子どもたちの学習環境が悪化する状況になれば、学校側と相談し対応しなければならないと考えている。
- 色々な意見をいただいたが、本日の協議結果を基に、教育行政の効果的な推進に努めていきたい。

(3) 八幡浜市教育大綱の「用語の解説」の一部修正について

【事務局】

- 市教育大綱の用語解説の文字表記の一部修正（次表参照）について、資料「愛媛県副教育長通知文書」により説明。

新	旧
〈注6〉 インクルーシブ教育 共生社会実現のためには、 <u>障がいの有無にかかわらず、誰もが共に学ぶ仕組が必要であり、障がいのある者が排除されないこと、初等中等教育の機会が与えられること、必要な「合理的配慮」が提供されることを基本理念として構築される教育制度。</u>	〈注6〉 インクルーシブ教育 共生社会実現のためには、 <u>障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組が必要であり、障害のある者が排除されないこと、初等中等教育の機会が与えられること、必要な「合理的配慮」が提供されることを基本理念として構築される教育制度。</u>

(質問等もなく承認)

(4) 意見交換

【菊池委員】

- よく登下校時の事故のニュースを耳にするが、登下校時の安全について、通学路の見直し、明るい街路灯の設置等を含めた改善策を市に考えてほしい。

【市長】

- 交通安全協会の街頭指導で反射テープ等配布しているが、意外と効果がある。学校側に夜間の反射テープ等の着用をお願いしたいし、教育長からも学校側に周知してほしい。

【井上教育長】

- 現在、青石中学校・保内中学校統合の作業部会で、通学路（自転車通学含む）の安全確保について協議している。

【事務局】

- 平成26年度に、警察や県（道路管理者）を含めた合同点検を実施した。今年度は、各学校の通学路を総合的に見直し、合同点検を実施する計画である。

【菊池委員】

- 反射材の着用については、昨年度視察した山口県柳井市では、生徒全員に反射ベストを配給し、登下校時に生徒が着用していた。ベストより簡便なタスキでも良いと思うが、何か良い方法をとっていただきたい。

**【市長】**

- 反射材については、参考にしたい。通学路の危険箇所の改善には、市をあげて取り組んでいきたい。

**【上田委員】**

- 松蔭地区の社会福祉協議会関係の仕事をしているが、地域行事への協力依頼に学校は気持ちよく応じてくれ、子どもたちが演劇等に参加している。学校の負担になっているのではないかと思っていたが、先生の話では、子どもたちへの高齢者からの演劇での拍手や登下校時の声掛けは、子どもたちにとって、社会勉強の良い機会になっており、感謝しているとのことであった。保育所も小学校同様、地区の行事に協力していただいている。学校が統合された地域でも、子どもたちは、色々な行事に気持ちよく参加してくれている。これが八幡浜市の非常に良いところだと思う。子どもたちが地域の潤滑油になって、地域がうまく動いている。

**【市長】**

- 学校側も、公民館や地区の社会福祉協議会との情報交換をしっかりしてもらえば、子どもたちが地域に帰っていきやすいと思うので、お互い、その窓口を設けて、連絡をとってもらいたい。

閉会